

# ニュースレター

## No.25

# News Letter

CHRISTIANITY AND CULTURE RESEARCH INSTITUTE KANTO GAKUIN UNIVERSITY

## 新年度の活動指針

キリスト教と文化研究所所長 村 椿 真 理

ニュースレター第25号をお届け致します。今年度は所員14名、研究員6名、客員研究員35名、総勢55名のメンバーで活動が継続されることとなりました。活動そのものは昨年に準じて進められます。但し今年度は、研究費の大枠は同じですが、これまでの均等予算配分を止め、前年度の活動実績を吟味し、若干ではありますがそれに基づく異なる予算配分を提案しました。特に研究プロジェクトは評価される研究成果を明確に出していただくことが重要でありますので、その事を念頭に活動を進めていただけたらと願っています。所員会議で今年度新たに取上げた課題に、研究所活動体制の改革がありました。外部の研究助成金獲得の努力と共に、これまでの研究体制の問題点を整理し、与えられている予算

を用いていかに有効な活動ができるか、すでに改革案も提示され、この一年を通じて抜本的改革を進めることとなりました。専門分野における学術的貢献、明確な研究成果の発信はもとより、本学における教育への貢献、また地域社会への研究所としての貢献課題なども、積極的に実現してまいりたいと思います。今年度は去年の「研究叢書」第二号に続き、「教科書」が年度末に刊行されますが、こうした出版活動も今後目指してまいる所存です。前年度は施設が改善されましたが、今年度は研究体制の一新に踏み込むこととなります。今後の研究所の歩みの上に皆さま方の変わらないご理解とご支援をこれまで通り賜りますよう、心からお願い申し上げます。

### Column「新しい時代からのアプローチ」

客員研究員 原 真由美

時代は目まぐるしく変化しているが、その変化は歴史研究にも及んでいる。日本におけるバプテスの教派活動は、他のキリスト教の活動と同じく太平洋戦争に分断された。太平洋戦争後は、キリスト教活動の立て直しのために多大な時間と労力を費やしてきた。このため関東学院大学とアメリカ・ミッションとの関わりには深い歴史があるが、教派研究を深める時間的余裕は少なかったと言える。さて、2008年にABHS (American Baptist Historical Society) がジョージア州アトランタ市のマーサ大学にオープンした。今年7月にハワイで行われるバプテス世界大会 (BWA) では、アメリカ・バプテス関係の歴史資料の宝庫ともいえるABHSのブース展示が行われる。インターネットなどの通信手段の発展は、歴史研究にも大きく反映されているが、これらのグローバル化の恩恵を期待しつつブースを覗いてこようと考えている。

# 近代上下水道の父「バルトン」

司会…小林照夫  
ゲスト…谷口尚弘・田中喜芳

技術者、写真家として知られるバルトンが開港当時の日本に残した多くの業績。誠実でひたむきな気概が伝わります。小説家ドイルとのエピソードを通して、スコッツマンの魅力をも3人の専門家に探って頂きました。

スコットランドから日本へ

小林…バルトンが来日するのは明治20年1887年ですね。その後東大で教えるのですが、何故わざわざ日本に来ることを決意したのでしょうか？

谷口…産業革命がある程度進んで来て、英国は各地にマーカーケットを開拓するために色々な人を派遣しました。バルトン家にも世界各地に出かけている人が随分いますが、日本に行くということに対してあまり抵抗感は無かったのではないかと思います。

小林…当時のスコットランド人は特に学歴が高く、勉強した人がいるけれど、職が無くてね、職が。

谷口…名古屋大学大学院の加藤詔士教授の調査によりますと、東京大学職員最高月給表にバルトンは400円と書いてあるそうです。外国人教官の平均は276円とありますので、同僚の中でも最高ランクですね。

田中…官報で見たのですが、バルトンの場合は、明治20年に月給350円で宿料が40円というところ、ポンドの換算で大体合計800ポンドだそうです。年収3000ポンドでもすごいお金持ちですから、倍以上のお金が取れるというのは一つの大きな魅力だったんですね。

谷口…バルトン家はアバディーンからエジンバラに移り、そこで彼は生まれ、ロンドンでコンサルタント会社のようなところに勤めました。当時、日本に上下水道が必要だということで、初代の内務省の衛生局長長と専断は先進国の技術者が必要、と考え、永井久一郎という部下を英国ロンドンに派遣しました。大阪経済大学の稲場紀久雄教授の最近の研究によりますと、セントトーマス病院の院長からバルトンは推薦されました。彼が選ばれた理由はやはり彼の人物ではなかったかともいわれています。

小林…明治2年明治維新政府が工部省を作る際、大隈重信はイギリスのものを取り入れようという指令を出す。後に工部大臣になる山尾庸三などはかなりスコットランドのものを手に入れるのに奔走しましたね。

## 日本での業績と生活

谷口…明治21年東京市は都市計画として、東京市区改正条例を作ります。その準備に『上下水道調査委員会』が設けられ、バルトンが上下水道の整備を行う責任者となりました。

小林…この下水道問題について外国人が指摘するのは、実はかなり早いです。横浜に居留地が出来、街の中に見える下水道にいたまればなく、外国人が居留地条例の中で自治権を発動した。何故バルトンのような人を呼んで、その頃、上下水道委員会みたいなものを作るようになるのでしょうか？

谷口…それはですね、開国後良いものばかりでなくて、西欧の悪いものも入って来た。その典型的なものがコレラなんです。明治10年から25年までの約15年間に人口の1パーセントである約40万人強の方が亡くなっています。これは日清・日露や佐賀の乱などの外戦、内乱での戦死者より多かったです。これに政府が非常に危機感と恐怖感を感じたんですね。岩倉使節団随員だった長与はヨーロッパでは社会基盤施設という形で、病気になるような施設があるということを実際にみて、衝撃を受け、帰国後上下水道が必要だと言ったのです。が、当時の日本人は近代的な上下水道なんてものは見たこともないし、想像もつかない。しかもお金が掛かるということでも誰も相手にしてくれない。結局彼は『大日本私立衛生会』というNPOのような組織を作り、理解のある学者や行政の人達の協力を得て、全国で大キャンペーンを張るんですね。その甲斐あって上下水道の必要性が認められ、明治22年の東京市区改正で上下水道を整備する時に、外国人専門技術者の指導が必要となり、永井が派遣されたのです。人を病気にしないような「施設」、つまり公衆衛生という概念を初めて日本に持ち込むとき、予防医学の「衛生」という言葉を長与が最初に作り、使い出し、大キャンペーンを行い、外国人指導者としてバルトンを招聘したという経緯です。

小林…彼が活躍するのは寧ろ内務省関係の仕事になるのでしょうか？谷口…帝国大学で「お雇い教師」として雇われ、同時に内務省の技師を兼任したんですね。明治20年代、ドイツから帰国した後藤新平が衛生局長になり、日本全国各地に上下水道を作らなくてはならないと考え、全国にバルトンを派遣し、計画あるいは実施設計のための調査を行わせるのです。当時は井戸があれば良い方で、柵渠と

か溝渠とかいわれる開渠や水路と排水路を兼ねた水路を飲料水の水源としていました。バルトンは上流まで行って、地形を調べ、水源を定め、自然流下で清潔な水を供給するという計画を各地で作ったり、助言したりしています。

小林…バルトンが直接扱った都市というのは何処なんですか？

谷口…函館、仙台、東京、名古屋、広島、下関、松江、柳川など全部で24都市あります。下関市ではバルトンが浄水場の企画を提案し、市がバルトンの調査報告に基づいて詳細な設計を行って緩速ろ過池を作りました。市はその緩速ろ過池の一部を残し、浄水をし、「ああ！関露水」という名前前で売っています。そのペットボトルのラベルにはバルトンの写真が載っています。また松江市にはバルトンの提案、アドバイスによって出来た水道用ダムがあります。

小林…それで後藤新平は彼を相当評価していたのでしょうか。バルトンは台湾まで行ってますよね。

谷口…そうですね。後藤が台湾総督府民政長官となって行くとき、日本での任期が終わって、帰国するバルトンに依頼して、一緒に台湾に行ってもらっているのです。後藤は衛生行政について『国家衛生原理』という本を書いています。富国強兵ではなく、先ず民が経済的に豊かにならなくてはいけない。それと同様に国民の衛生と健康が大切だと述べ、公衆衛生のためのインフラの重要性を主張しました。

小林…ところでバルトンはイギリスの学会では論文を出したりして活躍したのですか？

谷口…バルトンは英国では所謂大学は出ていませんが、家柄が非常に立派ですので、多分家庭教師などで相当な高等教育を受けていたらしい、とバルトン研究家の稲葉日出子氏は述べています。日本で実際に上下水道の実務を行い、専門の英文技術書を書いて、一応キングス・カレッジで化学を勉強して卒業して、ですが、この時は多分写真の勉強をしていたのではな

いかといわれています。

小林…彼のタイトルはシビルエンジニアになるのかな。

谷口…そうですね。

小林…イギリスでは市民のエンジニアということでアーキテクチュアよりもシビルエンジニアというタイトルの方が重要なんです。それは単に図面を書くだけでは無く、経済計算をして、採算性までを計算する、非常に優れた人が多いんですね。

谷口…日本では土木工学と訳し、非常に狭く捉えてしまったのです。元々はパブリックヘルス・エンジニアリングの概念に近いんです。反対がミリタリーエンジニアリングですけど、そういう意味では市民に貢献できる平和的な技術です。

小林…社会工学の領域まで入り、都市計画全体を巻き込む学問でイギリスでは社会的な評価が高いんです。その意味でも彼はイギリスで評価されていますか？

谷口…本国ではですね、バルトンはほとんど知られていないんです。ですから私たちが2006年にアバディーンで講演会をやったとき、ロンドン大学イアン・ニッシュ教授が日本とスコットランドの橋渡しをした人物3人について講演されました。それは貿易商グラバー、小説『Aragoan』を書いたマードック、それとフラントンでした。その後バルトン研究家の稲葉教授が講演をされ、終わったとき、「我々は4人目のヒーローを得た。」と会場から物凄い拍手がありました。バルトンは帰国する直前に東京で亡くなりましたから、ほとんど知っている人はいませんでした。

小林…写真の技術としてもバルトンは高い評価を受けているの？

田中…写真は伯父さんがやっていたので、その影響もあるのでしょうか。バルトンは露出の計算方法を自分で考案し、それを『The ABC of Modern Photography』という本にまとめ、発表したそうです。それがフランス語、ドイツ語、イタリア語にも翻訳されたという記録が有りますので、在野の研究者としては一流の人だったでしょう。



ウィリアム・キニンモンド・バートン (William Kinninmond Burton, 1856年5月11日 - 1899年8月5日) スコットランド・エジンバラ生まれ。明治時代の日本を主な活動拠点とし、専門の衛生工学で上下水道の改良に尽くした。すぐれた写真の技量を生かし、写真家としても大きな足跡を残した。上下水道整備での業績は、日本における衛生工学の出発点として評価されている。日本最初の高層タワー『浅草凌雲閣 (浅草十二階)』の設計者としても知られ、日本で客死した。

アーサー・コナン・ドイル (Arthur Ignatius Conan Doyle, 1859年5月22日 - 1930年7月7日) スコットランド・エジンバラ生まれ。『シャーロック・ホームズ』シリーズに登場する名探偵シャーロック・ホームズを生み出した事で知られるイギリスを代表する小説家、推理小説や歴史小説を多く著した。



「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ

代表：富岡 幸一郎

本グループは、近現代日本におけるキリスト教受容の問題を中心として、研究会等を行っている。一つの視点として、近現代文学との関連でキリスト教受容の問題を考えるプログラムを進めてきた。昨年度3月には、「三田文学」編集長の加藤宗哉氏を招いて「遠藤周作の世界」について講演会を開催し、多くの方に参加頂いた。本年度もこの観点から、所員・客員研究員による研究発表や討議とともに、外部の研究者や評論家等の講演を計画している。

「いのちを考える」研究グループ

代表：松田 和憲

本グループでは現在、関東学院内を対象とした意識調査を進めている。本年度は特に、以下の展開を課題としている。

①報告書の作成。

アンケート結果から、自分のいのちと他者のいのちを大切にすることで影響を与えた要素についての解析を行っている。共通する要素として、「一緒にいて安心できる人」の存在があることなどが明らかになっている。これらの結果について報告書を作成する。

②インタビュー調査の展開

アンケート調査結果を踏まえ、大学生のいのちに関する意識と実態を深めるべく、質的調査の可能性として学生に対するインタビュー調査の実施を検討する。

「奉仕・ボランティア教育」研究グループ

代表：細谷 早里

本グループは、以下の課題について活動を進めることを予定している。

①奉仕・ボランティアの視点から見た関東学院の教育の源流を探る。

関東学院の教育の歴史について研究会を開催し、最終的に人物を中心とした関東学院の自校史のテキスト作成を目指す。

②奉仕・ボランティア活動に対する意識調査

学生を対象として、「奉仕・ボランティア意識の形成」に関するアンケート調査を行い、その解析を行っている。

③奉仕・ボランティア活動の理論的研究のための文献研究を進める。

資料委員会

代表：村椿 真理

本委員会では、学院に関連する貴重図書の収集・管理を進めている。

本年度は、昨年度からの継続活動として委員会訳旧約聖書分冊の発掘・収集を計画している。

また、研究所における古書保管設備の整備、貴重書の整理、登録作業を継続し、閲覧のための制度作りについても検討していく予定である。

研究会等の予定は、随時ホームページに掲載していますので、ご参照下さい。

<http://kgujesus.kanto-gakuin.ac.jp/>

「国際理解とボランティア」研究プロジェクト

代表：森島 牧人

本プロジェクトの目的は、「奉仕教育」を切り口としてキリスト教と諸文化との関係を求めるところにある。そのため、これまでタイ北部岳少数民族への現地調査研究を実施し、国際サービスラーニングの理論と実践研究に力を注いできた。本年度も、以下の課題を中心に、アカ族を研究対象として選び、調査、研究会、セミナー等をおこなっていく。

①タイ北部岳少数民族へのキリスト教の影響についての調査研究

②タイ北部岳少数民族における生活および教育環境の整備調査

③タイ北部岳少数民族への自発的経済発展に寄与する支援モデルの考察

「バプテスト」研究プロジェクト

代表：村椿 真理

本プロジェクトは2004年度より取り組まれた「バプテスト派の歴史的貢献」研究プロジェクトの継続研究プロジェクトであった。その成果は2006年度および昨年度に2冊の研究叢書として刊行した。この研究プロジェクトについては、本年度は、共同研究グループの形態で継続する。本年度は、並行して2007年度より進めてきた「バプテスト史」教科書を年度末に刊行する予定である。この教科書刊行は、日本で画期的な試みであり、本学本研究所学術的功績を高く広く世に示すことのできるものと期待している。

「坂田祐」研究プロジェクト

代表：帆刈 猛

本プロジェクトは、坂田祐の活動についての研究・検証を進めている。本年度も以下の活動を予定している。

①研究会の開催

坂田祐の活動とその時代について研究会を開催する。外部講師を招いての研究会も予定している。

②坂田日記の解読

坂田創氏が解読を進めてくださっている日記について、データ入力を進めている。関連資料として、昨年度に一連の手帳類が坂田記念館から研究所に移管されたことも、今後研究を進めるうえで大きな一歩になると思われる。

③会津での研究調査

坂田の祖父にあたる日向内記、および坂田の両親についての調査研究を行う。

「依存症とキリスト教」研究プロジェクト

代表：安田 八十五

本プロジェクトの主たる目的は、「依存症」および「依存症社会」の構造と特質をキリスト教の視点から分析し、解決のための方法と手段を探ることである。

主な研究課題としては、以下のテーマを計画している。

①依存症に関する総合的調査研究

②依存症社会に関する総合的調査研究

③依存症と依存症社会に関するキリスト教との関係の基礎的調査研究

④依存症からの回復のための12ステップ方式自助グループの実践と実践的研究

⑤大麻・不登校・引きこもり等の最近の大学生等に起こっている依存症問題に関する研究

⑥出版計画の準備作業

# The space of the Member

「文化の枠組みとしてのキリスト教」 所員 経済学部 中村友紀

キリスト教と文化研究所とは、伝統あるキリスト教主義大学組織のアイデンティティ・理念の継承及び生成に関わる重要な機関と理解しております。その研究所に、本年度より所員として参加する機会を賜りましたことに感謝申し上げます。

イギリス近代初期文化史及び演劇を研究しております。400年前のイングランドの民衆世界は、キリスト教的背景を抜きには考えられません。当時の民衆文化は、宗教エリートや王権の思惑がせめぎあう各教派の宗教地勢図に深く影響されつつも、それに頑なに抵抗するものでもあり、また、キリスト教信仰と太古の異教信仰の残滓との縋い交ぜの多元的な宗教的土壌に根ざすものでした。演劇に関しては、市民やギルドが祝祭暦の折々に旧約聖書や福音書をパジェントのアマチュア劇で演じ、一方、当時出現したプロフェッショナルな演劇は、その詩的言語や世界観において聖書のこだまを響かせていました。近代初期イングランド文化に対しキリスト教が思考・表象の元型をもたらし、倫理の源泉、精神の枠組みとなり、その後の近代化の歩みを決定する一つの巨大な文明となったことは、文化史・演劇研究の観点から重要な事実です。

キリスト教そしてバプテストへの理解を深め、努めて参りたいと考えております。皆様方には今後ともご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「研究所での活動についての抱負」 所員 経済学部 渡辺光一

キリスト教教育やキリスト教と文化の研究を進めていくうえでは、アジアの諸国を研究する視点も大切だと感じています。これには、研究所でのプロジェクトでの取り組みにも薫陶を受けてのことですが、他にもいくつかのエピソードが係っております。1つは、同じ経済学部の中原先生が、フィリピンでの英語教育は日本の英語教育よりもはるかに成功しているということについて研究なさっているのを伺ったことです。個人的にも、韓国・中国・フィリピンなどの友人は、概して日本人の友人たちより英語が上手なような印象を受けています。国際ビジネスコミュニケーション協会によれば、TOEICスコアも、日本での平均点は、アジア全体でのそれよりも、だいぶ低いそうです。2つは、最近韓国訪問の機会を得て、韓国でのキリスト教の隆盛を実感したことです。2005年に行われた韓国統計庁の社会統計調査によると、韓国の総人口の約3割はクリスチャンだそうです。歴史的な経緯は日本に似ている点も多い韓国ですが、英語やキリスト教については、大きな違いがあるようです。このような他国との違いを構造的・体系的に研究していくことができれば、何か新しい発見があるのではないかという気がしています。

関東学院大学 キリスト教と文化研究所

〒236-8501

横浜市金沢区六浦東1-50-1

電話：045-786-7873(研究所直通 月～金曜 10:00～16:00まで)

FAX：045-786-7806(研究所直通 24時間受付)

発行者：村椿真理

Director: Makoto Muratsubaki